



八千代オイコス かわら版

第 39 号

平成 31 年 2 月 15 日発行

NPO 法人八千代オイコス

<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



2018/9/16 稲刈り : 米づくり体験家族 20 家族 61 名とスタッフ 12 名 (講師含)

新しい年を考える — 子どもたちと学ぶこと —

八千代オイコス代表理事 川瀬純一

今年は 30 年の節目を以って平成の年号が変わる事となる。新聞・TV 等の平成の歴史を語る中、自然災害の特に多く発生した年と総括されている様です。特に台風・水害の被害は年々多く、しかも大きな災害をもたらしている様に思われます。温帯地域に位置する日本列島は、今や亜熱帯地域と化したようにも感じられます。新しく変わる年が平穏な時代となる事を望みたいものです。

さて、オイコスの活動の柱の一つに「地域の中で年齢の異なる子どもたちが互いに影響し合って育てられていくような、「地域教育の場」を築いてゆくことを理念に活動を進めて参りました。「川の学校」を十数年継続している事に加えて、昨年 20 組の親子を募集の上「子どもたちと米づくり体験」を実施しました。

オイコスの米づくりの歴史は長く、去る 2006 年 (H18) 萱田地区に一反の田んぼを借りて米づくりを開始。現メンバーもまだ若く、全くの素人集団として専門家に教わりながらスタートしました。以来<米の生育>を通して農業の実情、代掻き・田植え・草取り・稲刈り (天日干し)・脱穀等米づくりの一通りを学びました。

2014 年 (H26) には神久保で借りた田んぼに 5 組の家族を募集して、始めて一般者を交えての米づくり一餅つき会の行事が定着しました。

今の子どもたちには田んぼに入っの「田植え」どころか、日頃の遊びの中に「泥んこ遊び」など皆無の時世に初めての仲間同士が泥田の中に入り、お互い協力し合っって苗を植える事、草取り～稲刈り・脱穀までの米の成長を見守りながら大きな役割を全うする事に、どんな思いを持って呉れた事でしょう。

オイコスは“自然の中で自然を学ぶ”子どもたちをこれからも応援し続けて行きたいと思ひます。



稲刈りに参加して

小学4年 一ノ瀬 葉月

今回の稲刈りは、わたしにとって2回目の稲刈りでした。2年生の時に学校の授業でイネを育てたことがあります。

学校の田んぼは小さかったのであまり疲れませんでした。今回の稲刈りは学校の田んぼとは違って広がったので、とても疲れしました。

稲刈りの時にはたくさんの人が鎌を持っていて、刃物が苦手な私は少し怖く感じましたが、夢中で稲刈りを進めると、田植えの時よりもたくさんの生き物を見つけることができ楽しかったです。カエル、バッタ、カマキリ、トンボ、コオロギが多かったです。ピンク色のバッタもいてびっくりしました。

途中で水分補給をしながら休憩を何回かはさみました。その後刈った稲を束ねて、紐で結びましたが、わらでむすぶのはむずかしかったです。

頑張ったたくさんの稲を束ねました。一生懸命刈った後の昼ご飯はとても美味しかったです。もうすぐ餅つきです。美味しいお餅になあれ。



楽しかった稲かり

小学2年 稲田 真也

さいしょは、前にやったワラすぐりで作ったワラで、一はんと三はんがかってくれた稲をたばねました。パパとたばねました。ワラがかたくて大へんでした。チェンジした時、ぼくは友だちのあきひとくんといっしょにやりに行きました。あきひとくんがひもをもっていたので、ぼくは「そのひも何？」と聞きました。あきひとくんは、「たばねるひもだよ」と言いました。ぼくもやってみたらかんたんだったので、いいなと思いました。

つぎに、稲かりをしました。さいしょはカマで切るのが大へんだったけど、だんだんなれてきて、一人でもできるようになって、たくさんがんばりました。となりの子がリードしていたのですが、まげずに早くやったら同じくらいになった気がしました。稲かりのあとにおべんとうをたべました。がんばったあのおべんとうは、やっぱりおいしかったです。

はざかけもしました。はざかけは、オイコスの人が竹で作ってくれました。ぼくとあきひとくんとママでいっしょにかけました。パパが、「稲をほすためにするんだよ」と教えてくれました。こんどのだっこくもがんばります。



いねかりはつかりました

小学2年 田中 花菜

いねをかるにはかまがひつようです。わたしはかまをはじめてつかいました。はがするどくてなんでも切れそう。いねだけじゃなくゆびも切れそうだと思いますながらお父さんとやりました。さいしょはお父さんといっしょに左手でもって、おくから手前にひいていねをしんちょうにかけていきました。その間にとりで姉がもうスピードでたくさんかっていきました。

そのあと私はいねを集めることにしました。わたしはいねはあとでたばねやすいように4～5本をほさきではなくかったねっこの方をそろえておきました。

お父さんや姉がきったいねも同じようにあつめ、そのあとにたばねました。

さいしょはわらでむすんだのでむずかしかったです。

そのうちオイコスの人がひもをもってきてくれたので、わたしもやってみました。ひもでやるとわらよりはやりやすいのですが、わたしにとってはちょっとむずかしかったです。ひもを力いっばいひくので力がひつようです。

わたしはつかりたのでちょっときゅうけいしました。きゅうけいのあとにいねをほしました。いねはかなり重かったのでつかりました。さいごにざっそうをひろいました。

来年も行きたいと思いました。



たのしかったいねかり

小学3年 山ざき り子

九月十六日。いねかりの日。わたしは、行くじゅんぴをしました。

ついた時、いねがこしぐらいの所までせいちょうしていました。わたしは、びっくりしました。

わたしは、さきにいねをたばねました。むずかしかったです。

そのつぎに、いねをかりました。どんとんとやっていくとなれました。なれてはやくなってきたらへびがいました。びっくりしました。

次にハゼにかけました。でもたおれてしまいました。みんなできょう力してもう一度やりました。次はせいこうしてみごとぶじにできました。

わたしは、米づくりをしてよかったです。ちょっとたいへんなこともあるけどきょう力したらみんなできてよかったなと思います。



2018/12/16 餅つき会：米づくり体験家族 19 家族とスタッフ 合計 82 名



餅つき会

実行委員長 金室 彰

今までは 20 名程度で餅つきを行なっていたので、顔見知りと言うこともありましたが、今回は、子どもゆめ基金の助成をいただき、多くの米づくりメンバー（20 家族）に自分たちで実らせたもち米を、餅にしていく体験をして行くことで、今までの大変さを、楽しみに変えて行けたらと考えました。

今回は初めて機械と手打ちの混合を試み全員が餅つきを体験できることが出来たと思っています。メンバー 70 名が役割を持って楽しむこと、つくたての餅を食べる、持ち帰った餅で家族が話しのネタに出来る、そんな事を私は考えていました。「子どもたちと米づくり体験」を行って来た長い行事でしたが、オイコスメンバーの協力なしでは成し遂げることが出来なかった行事だと再確認しました。オイコスは年間行事をたくさんやって来ていますが、市民活動は行事をしながら問題の掘り起こし、問題の解決を行い、その目標にむかってこそ進化していくのだと米づくり体験で感じる事が出来ました。

皆さん半年に亘りありがとうございました。





楽しかったよ、おもちつき

小学2年 室田 光稀

八千よのうぎょうこうりゅうセンターで、おもちつきをしました。さいしょにおもちつきのじゅんぴをしました。むしたもち米を大人たちが、うすときねで、もちつきをして、一口サイズにしてくれました。つきたてのおもちは、おいしかったです。ぼくはあんこときなこの2しゅるいを食べました。おいしかったので3こい上、食べました。田うえから、お米になるまでやって、自分たちが作ったお米は、いつもい上においしかったです。

つぎのししょくのときに、とんじるも、よういしてくれて、中にもちをいれたら、おいしかったです。体があたたまりました。

さい後に自分の家にもち帰るおもちがありました。そのおもちをつくときに、きねがすごいおもくてびっくりしました。上手におもちをつかないとうすときねが、ぶつかって、木のくずがはいってしまったので、むずかしかったです。

田うえから、もちつきまで、とても楽しくできました。



「米作り体験を終えて」

小学2年 一ノ瀬 暁仁

米作りの体験の中でむずかしかったことは、田うえの時はなえをうまく立てられなかったし、いねかりの時はかまを使う事がこわかったので、むずかしく感じました。でも、作ぎょうをするうちになれてうまくできるようになりました。

もちつきでは、とてもさむくてつかれたので、さいごはねむくなってしまいました。

きねでもちをつくじゅんばんが思ったよりも早くきました。きねはとてもおもかったです。がんばって何回もつきました。ついているうちにもちをつくのが楽しくなりました。できたおもちのはりとしょうゆで、7こか8こくらい食べました。ほかにもきなこやあんこがありました。

ともだちのまさやくんと、おもちもとんじるも、田うえといねかりの時のおべん当もいっしょに食べたので、もっとおいしかったです。

8月の生きものたんけんの時は入いん中で行けなかったので、来年はさんかしたいです。

もちつき会

小学2年 いけ上 わたる

ぼくは、最近田植えのことが少しわかって来ました。

もちつきがかいさいされました。

やり方はもち米をむして、へやの中でもちつきのきかいに10分入れます。その後にもちをうすに入れます。さい後にじゅん番にもちをつきます。

じゅん番が来るまでだるまさんがころんだをしたり、もちを食べたり、とんじるを飲みました。

その後、家のパパがおいかけっこをしてくれました。

おみやげにおもちと、もち米をもらいました。

また来年も米作りをして、最後にもちつきをやりたいです。



たのしかった米作りたいけん

小学2年 西 正登

今回、はじめて田うえから稲かりまで米作りのすべてのさぎょうにさんかさせていただきました。

春、五月のはじめに田うえをしました。手さぎょうでしたのですごきたいへんでした。草取りはたいへんでしたが、すごく楽しかったです。

夏には竹でっぼうを作ったりいろいろな作ぎょうをしました。

稲かりは前にもけいけんしたのでたのしくて一回目のときを思い出しました。いねを刈った後にたくさんのカナヘビやコオロギ、バッタなどの虫が出てきました。そして、はじめの小川を見てみるとドジョウやタガメらしきものが見つかりました。らい年はどんな虫がでてくるかたのしみです。

冬にはもちつきをしてすごく楽しくておいしかったです。

今回はほぼはじめてなので、きんちょうしました。今までに楽しかったり、むずかしかったり、つらいときもいろいろありましたがさんかしてよかったです。

またらい年もさんかしたいです。まい年そのままですつづけてほしいです。



八千代の里の小っちゃい秋

橋本 隆夫

絶好の秋日和に恵まれ、「小っちゃい秋」探しに出発です。史跡巡りは何度か経験しましたが、今回は何か違った雰囲気でごやかに学ぶことができたのは小林リーダーのウィットに富んだ説明のおかげでしょうか。途中、周りの木の葉が異常に枯れているのに気づくと、これは紅葉ではなく先日の台風の塩害被害だ、との事。改めて爪痕に驚く。気を取り直して新川沿いのコスモスや秋の草花を愛でながら散策。富士美橋から見るおぼろな雪富士の美しい事。思わずうっとり。

さてこれからはゴミ拾い作戦の開始です。出で立ちも新たに、右や左をキョロキョロと、皆さんまるでゴミ拾い競技会のように。すると生活用品などが数多く回収され非常識な「ゴミ・世捨て人」のあまりの多さに唾然とせざるを得ませんでした。田んぼ横の小川でメダカを見つけ思わずホッとするとこれは蚊の駆除のために放流した外来種で異常に増えメダカはもう棲んでいないと伺い、こんな形での自然破壊が身の回りで起きていることを初めて知らされました。心地良い疲れと空腹感の中、ゴールの土橋へ。用意されていたご褒美の焼き芋を美味しくいただきました。有難うございました。



秋晴れのエコ・ウォーキング

島 利栄子

雲一つない秋晴れの下、八千代中央駅には元気な28名が集る。まずは新萱田公園に移り簡単な準備運動からスタート。公園内の弁天堂・水神宮見物。こんなところに弁天堂が？知らなかった。ゆりのき通りを横切って細い道を折れたり曲がったり。「八千代オイコス」の旗を先頭に長くなりがちな一行に「早く早く！」「車に気を付けて！」と声が飛ぶ。配られた資料を片手に塩害にやられたイチヨウや、鈴なりの柿の実を愛でながら萱田・長福寺、熊野神社、ボンテン塚と出羽三山参り碑、萱田・時平神社を回り、飯綱神社に到着する。小林会員の解説は史実にユーモアも交え、楽しく、引きつけられる。房総は出羽三山参りが盛んで石碑が沢山あり、月山、羽黒山、湯殿山の順番で建造の年代が判るのだとか。

急な階段を上り飯綱神社へ。ここでトイレタイム。新川へ向かう。農道かと思いきや意外と交通量が多い。新川の入り口では十月桜がお出迎え。「最近セイダカアワダチソウに代ってナガエツルノゲイトウが凄いの」と桑波田会員から教えて貰う。富士美橋でかすかな富士山を拝んでから、桑納川に沿ってのゴミ拾いとなる。空き缶、ペットボトル、菓子袋が多い。水浸しの雑誌や釣り竿、古タイヤも。汗ばむ頃ようやくオイコス活動地花輪川に着く！川瀬代表らがお出迎え、おいしい焼き芋に疲れも吹き飛ばす。万歩計を見ると1万5千歩、10キロの行程か？歴史と自然を満喫した半日。ありがとうございました。

コスモスエコウォーキングについて

スタッフ 新谷 啓一

10月21日(日)久しぶりの秋晴れの中、コスモスエコウォーキングを楽しみました。

今回のスタート地点はいつもの八千代緑が丘駅でなく、八千代中央駅で約7.7Km、3時間のコースです。道中はスタッフ小林の名調子の案内でスタートしました。中央駅南側窪地の奥に名主へエベエさんが建てた、弁天堂と水神宮があり、ここでエコウォーキングの無事を祈る。中央駅に戻る方向の長福寺に向かう。山門が朱塗りの為通称“赤寺”といわれる真言宗のお寺です。山門の内と外にそれぞれ六地藏が並んでいる。境内には21番札所で八千代八福神の寿老人が祀られています。次は聖徳太子塔のある熊野神社に寄る。江戸時代下総では一人前の男になる為の修行、出羽三山参りが盛んで、その出羽三山碑と梵天塚の説明を受ける。平安時代、菅原道真を陥れ、太宰府に左遷させた藤原時平を祀ってある時平神社を見る。歴史勉強最後は萱田の産土様“飯綱神社”です。ここで一休み。小高い飯綱神社より下って、新川堤を歩き、桑納川の下のかかる富士美橋に進みます。富士山が微かに見え、スカイツリーも望めます。ここより本番オイコス保全活動のゴミ拾いです。トンゴとゴミ袋を持ち、秋の草花を愛でながら、可燃物、不燃物ゴミを分別して歩きます。市民マナーが良くなったのか、ゴミは少なかった気がします。終点のオイコス活動ステージ花輪川の土橋で美味しい焼き芋を頬張り、いい気分で解散する。今回の参加者中子どもは一人でしたが和気あいあい、八千代の歴史と自然を散策しながらのエコウォーキングでした。

春の菜の花エコウォーキング

春の花咲く野辺を、桑橋の歴史を辿りながらウォーキングを楽しみ、エコ(清掃)活動も行います。

ゴールでは美味しい搾りたて牛乳がお出迎え!

◆開催日 2019年3月24日(日)

◆集合時刻・場所 午前9:20 八千代緑が丘駅北口 ロータリー目的地までバスに乗りします

◆コース概略

八千代緑が丘駅～桑の橋バス停～安養院・阿弥陀堂～薬師堂～弁天祠・弁天池～地藏堂・御嶽登山講碑～秀明学生会館入口の石造物～安養院墓地～(清掃活動)～八千代オイコス活動拠点・花輪川ベース～寺台バス停～八千代緑が丘駅<解散>

◆解散 花輪川～寺台12:47発バス乗車～八千代緑が丘駅

◆参加募集人員 30名

◆参加費 300円(資料代・保険料他)

◆申し込み 3月15日までに下記へお申し込みください

◇お問合せ先: NPO法人八千代オイコス 代表理事 川瀬 純一

◇住所: 276-0046 千葉県八千代市大和田新田 446-226

◇電話: 090-8511-3086 FAX: 047-459-0025

◇E-mail: info@yachiyo-oikos.jp



「やちよ市民活動フェスティバル」に参加しました



日時: 2018年11月4日(日) 10:00~16:00

場所: フルルガーデン八千代 噴水広場

参加19団体。八千代市内の市民活動団体が日ごろの活動をパネルや体験型展示で紹介します。ステージでは子どもたちによる合気道やダンスなど各団体の得意な演技で盛り上がりました。来場者(参加団体メンバ含む)は各団体ブースQ&Aを条件にスタンプラリーをしながら巡ります。今回、オイコス展示ブースは、恒例の「竹酢液」、「モミジバフウ(紅葉葉楓)」や「どんぐり」の実を炭に加工したものに加え新たに、花輪川の生き物や地図、竹馬を用意しました。川の生き物はオイコスメンバが前日花輪川で確保したドジョウ、ヨシノボリ、ザリガニです。

『花輪川』の場所や『川の学校』に興味を持たれた方々からいろいろ質問を頂きました。

これからも市民の皆様は活動内容を知って頂き、他の市民活動団体との交流も密に出来たらと思います。



編集後記

地域デビュー講座に参加して

2018年11月30日、ふれあい大学32期生に対する、市役所主催の「地域デビュー講座」に八千代オイコスの一員として、参加しました。

ふれあい大学で学び、やがて卒業されますが、卒業後、継続して知人・友人と共に学び合う、という事が最も大事な点になってきます。特に、男性は、現役を退きますと、周りに知己の方が少なく、途方にくれる事が多いと聞きます。

そんな時に、市内で活動する市民活動団体の門を叩いてみませんか?と呼びかけました。

初めはいろんな事がうまく出来なくとも、続ける事で身に付き、そして共に活動する仲間が出来ます。

知人・友人の輪が広がれば、毎日に張り合いと喜びが生まれます。

初めは門を叩くのが勇気がいるますが、まずは、ウォーキングや自然観察、歴史散策、体操や運動、などのお試し体験を含めて、とにかく前に出る、そうすると自然に人と交わる事が出来るようになり、そして、自分に合う、出来そうな市民活動が自然と目の前に現れる、という事を、多少の先輩としてお話させていただきました。(スタッフ 小林和幸)